

平成 19 年度ホタテガイ採苗情報（第 3 報）

平成 19 年 5 月 9 日

発行：岩手県水産技術センター

協力機関：沿岸地方振興局水産部

「宮古と釜石地区で付着稚貝数は増加。」

1 ラーバの出現状況

5月9日に唐丹湾でラーバ調査を行いました。

ホタテガイラーバの出現数は、殻長200 μ m未満が6個/トン、200 μ m以上が17個/トンと前回調査時（合計13個/トン）より増加しました。

調査時の水深10m層の水温は9.7 $^{\circ}$ Cと、前回調査時より0.4 $^{\circ}$ C上昇し、平成9～18年の平均値より1.2 $^{\circ}$ C高い値になっています。

2 試験採苗器による付着稚貝調査

5月1日以降の調査において、宮古、釜石および大船渡地区で付着稚貝が確認されています。

各調査点の付着数は1～192個/袋でした。宮古地区と釜石地区で付着数は増加しています。

なお、唐丹湾では、付着稚貝の4割が付着直後の個体でした。

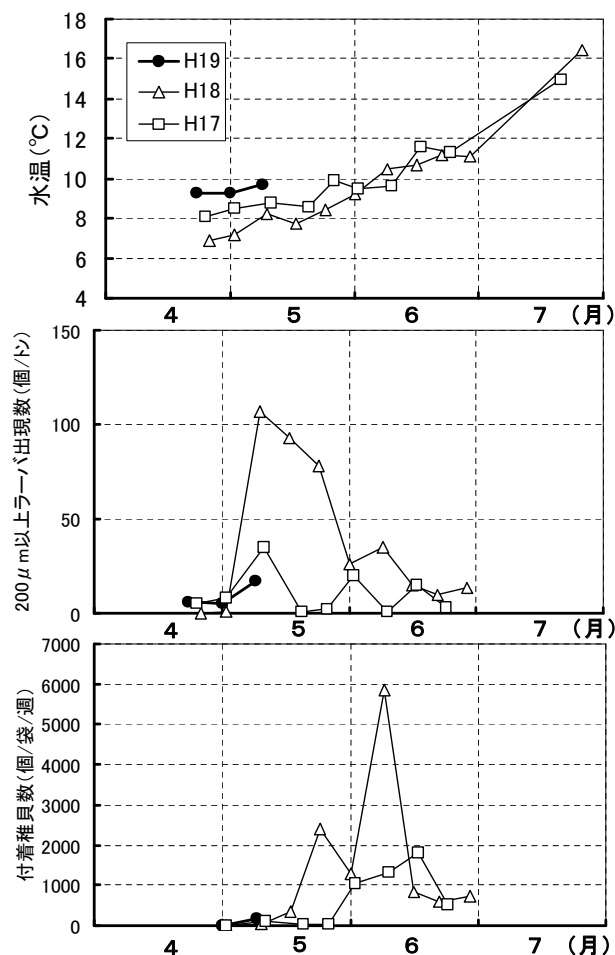


図 唐丹湾における水深10m層水温とホタテガイラーバ・付着稚貝の出現状況

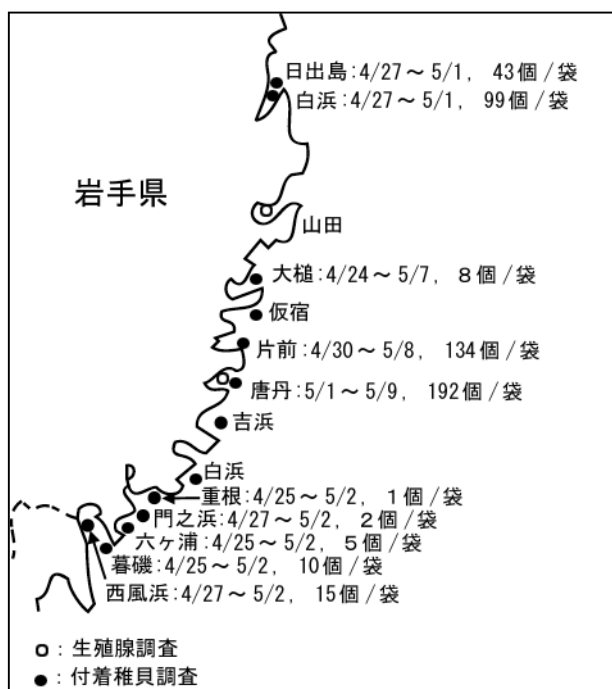


図 調査点と付着稚貝調査結果

県中南部では、大型のラーバが確認され、付着稚貝数が増加しています。しかも、付着直後の稚貝が多数確認されていることから、稚貝の付着は続いており、採苗器の投入開始時期を迎えたものと思われます。

今後の調査結果に十分注意し、採苗器を投入する場合には、数回に分けた分散投入の実施を心がけてください

次報は、5月16日に発行する予定です。